
道連れ召喚

とっち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

道連れ召喚

【Nコード】

N8849D

【作者名】

とっち

【あらすじ】

少年は道連れで召喚された。勇者として召喚された少年のおまけで。前途多難のお先真っ暗な少年の異世界物語。ちなみに道連れ召喚された少年は主人公としては最悪です。正義感0、悪事の天才、貧弱少年です。

第一章 始まり始まり（前書き）

気が向いたら更新していきます。

第一章 始まり始まり

何か悪い事をしただろうか？

いやいや、したことはしたけど…これは無いだろ。

何で僕が道連れでしかも最悪の形で召喚されなきゃいけないわけ？
もう意味分らない。

そう、僕は友達の河東 要と学校から帰っていた。

世間話をしていたさ。

要は頭がいいし、運動もできるし、モテるというパーフェクトマン。

僕は悪知恵が働いて悪事の才能なら誰にも負けない、嫌われ者というパーフェクトマン。

ある意味ね…

っていうか才能の使い方によっては要みたいになるはずなんだけど、
あえてしない。

おもしろいし。

人の心なんて簡単に騙せるし、人の物なんて簡単に盗めるし、人の
行動なんて簡単に読める。

それが全部悪い方向に行っちゃっただけ。

要は、綺麗な綺麗な黒髪、キリッとした目、っていうかもう何もかもが綺麗。

心も綺麗だ。

かなり鈍感だけどね。

数々の女の子を泣かせて来た罪な奴。

僕も数々の人を泣かせて来た罪な奴。

関係無いか。

僕も何が言いたいのかわからなくなってきた。

ちよっと混乱してるんだね。

まあ、こんな頭おかしい奴ですが許して…って誰に話しているんだ

ろ…。

とりあえず結構突然に来る事って多いよね？

今回はそれがかなり特殊で最悪だったって事。

いきなり隣に歩いている要の体が光りだした。

ちなみに要の周りの下、一メートルの円形も。

ちなみに僕は危険を感じたから逃げようとした。

けど隣のクソがそれを許してくれない。

いきなり僕の腕を掴みやがったんだ！

僕は要よりも力が格段に…っていうか僕の身体能力は一般人以下。

簡単に言うと言弱。

自分で言って悲しくなるけど、これが真実だから仕方ない。

まあ、要に腕を掴まれた時点でバットエンド決定。

めでたく僕達は地球から姿を消した。

おまけで。

王様…酷いし口悪いですよ

隣には放心状態の要。

周りには呆然としているコスプレな人達。

その中の王様みたいな人が口を開いた。

「成功……か？」

聞かれても知らないよ。

「まあ、一応成功です…多分」

多分ってボソツと言った！

口調からして多分王様の下にいる臣下みたいな役だろう。

「勇者はどっちだ？」

「綺麗な方が勇者様ですね」

「ささ、勇者様こちらへ」

臣下の一人が放心状態の要を連れて行った。

「そいつは牢にでもぶちこんでおけ」

王様…酷いし口悪いですよ…

そして今牢にいる。

僕を連れて来た奴から鍵は盗れたから脱出はできる。だが監視がいるからうまくいかない。

さて、監視をどうするか。

僕が脱出方法を考えていると突然監視に声をかけられた。

「お前異世界の人間なんだよな？」

「うん」

「じゃあ異世界の話を聞かせてくれよ！」

「いいよ。ただし条件付きでね」

僕は今、相当悪そうな笑顔をしただろう。

「な、なんだ？条件って？」

「逃がして」

「無理だ」

即答ですか…

その時監視の隣にある扉が開いた。

出てきたのは僕と要が召喚された場所にいた臣下の一人だった。

「出る。勇者様が呼んでいる」

それはありがたい。

要に感謝感謝。

移動移動。

綺麗な廊下を歩いている。豪華すぎるし。つていうかもういくら僕でも状況が理解できた。

かなりブツ飛んでるけど、ここは異世界。

だからこの人達もコスプレじゃない。

むしろここでは僕がコスプレな人だろう。

まあ、それは置いといて。要は勇者として召喚された。

僕は本来召喚されなかった。

つまりおまけ。

もしもあの時要に道連れにされなければ、こんな状況には陥る事は無かっただろう。

僕の隣を歩いているお喋り臣下さんの話では、要には強大な魔力があつたらしい。

僕には一切魔力が無いらしい。

なんとも不公平な話だな。魔力の有無で勇者かどうか決めるなんて：っていうか僕は勇者って柄でも無いな。

どっちかって言うと、悪魔だし。

自覚はしてるよ。

そんな事を考えている内に目的地に着いたようだ。

扉が開き、僕とコスプレ要が一時間ぶりに対面した。

勇者要様！みたいな？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8849d/>

道連れ召喚

2010年10月28日03時52分発行